

実際にサロンを運営している3つの団体の代表の方との楽しいトークショーを紹介します！！



サロンフェスティバル
トークショー

- 第1部 サロン紹介
- 第2部 コロナ禍での活動
- 第3部 フリートーク

第1部から第3部までの3部構成となっています
是非お読みください



コーディネーター
 茨城キリスト教大学
 非常勤講師
 池田先生

堀口高齢者サロン
 さくら・桜
 佐藤さん



正安寺ふらっと
 増田さん

高齢者ふれあいサロンのぞみ
 巖淵さん

ひたちなか市
 地域福祉課
 平井



※トークショーの内容を抜粋しました。



パネラーの方のサロンの紹介
をしてもらいました！

高齢者ふれあいサロン
のぞみ

- ・開催場所：市営の鹿島台アパート（借用）の一室
- ・開催日時：第2・第4火曜日9:30～11:30
- ・スタッフ：民生委員2名・
鹿島台団地に住むボランティアスタッフ4名
の計6名

《活動のきっかけ・想い》

- 🌻 鹿島台アパートには高齢者が多く、『孤立してしまう人たちを何とかしたい！』とサロンを開始。
- 🌻 1人暮らしの方の訪問に行った時に不安なことを聞き、その不安を少しでもなくそうと活動。

《活動内容》

- 🌻 外出しにくくなっている方と、社会福祉協議会の福祉バスを利用して買い物等に行く。
- 🌻 地域の方を巻き込んで、手品・バルーンアートをやってもらったり講話を聴いたりする。
- 🌻 健康・生活面の不安がある場合、地域包括支援センターに来てもらい、認知症予防の話や体操等を行い不安の解消をする。

- 🌻 地域のつながりを大切にするため、鹿島台アパートに住んでいるボランティアスタッフが不便だ
と思う課題について、民生委員としてどのように対応できるかを検討。
⇒サロンのぞみから鹿島台に住む人たちに様々な情報を発信（のぞみ発信）する。
例) ① ワクチン接種はどのようにするの？→こんな情報がありますよ！とお知らせを回す。
例) ② 高齢者への悪質な詐欺があるため、警察と連携しパトロールする。

地域に根差した情報の発信を、サロンのぞみを中心に行っています。

《池田先生からの質問》

コーディネーター
池田先生



月2回の集まり以外の取り組みの広がりを感じました。
活動を始められてボランティアの仲間は広がっていますか？

広がっています。鹿島台の方以外でもサロンを盛り上げるために協力しますよ！と話をいただいています。また、民生委員を通してつながりのある方からも協力をいただいています。

高齢者ふれあいサロンのぞみ
麻澁さん



堀口高齢者サロン
さくら・桜

- ・開催日時：毎月第3土曜日の午前中
- ・参加登録者：45名 男性15名
- ・参加人数：約35名前後
- ・平均年齢：78.6歳 最高齢92歳
- ・参加費：100円
- ・スタッフ：自治会役員・民生員・保健推進委員・
元気アップサポーター・お母さん太鼓メンバー

お母さん太鼓の特徴は？

堀口地区独特の特徴！若いお母さんたちに準備や接待などを積極的に係わってもらっています。

《活動のきっかけ・想い》

- 地域の高齢者が生き生きと元気に暮らすことができるきっかけを作りたい。
- 健康長寿には「運動・つながり・栄養」が大切！
⇒堀口地域に、定期的集まることで顔なじみの輪を広げ、住み慣れた場所で生き生きとした日常が送れるよう、交流の場としてサロンを立ち上げた。
※地域内から「早くサロンを立ち上げてほしい」「協力は惜しまない」と声が聞かれていた。

『さくら・桜』というサロンの名前は堀口公園に樹齢400年の桜があり、長寿に肖りたいという想いから名づけています。

《参加者の活動内容》

- 保健推進委員の行う元気アップ体操・誕生会・歌・おしゃべりタイム・クリスマス会（12月）

ふれあい会議のコーディネーターに気軽に相談できる体制作りをしています。



《池田先生からの質問》

コーディネーター
池田先生



スタッフのお母さん太鼓はいつごろからどんな感じで始まったのでしょうか？

『子どもたちを地域の受け皿としてどうやって受け入れるか？』『子どもたちにふるさとの思い出をつくってあげたい！』『子どもたちに太鼓をたたかせてあげたい！』という気持ちで、ふるさと太鼓を平成4年に作りました。

子どもたちに太鼓等の指導をしていたお母さんたちが、自分たちも太鼓をたたこうということで始めました。

堀口高齢者サロン
さくら・桜
佐藤さん



正安寺ふらっと

- ・登録者：小学生6名・中学生8名 計14名
 - ・スタッフ：住職（増田さん夫婦）・不登校を経験した人・子どもが不登校だったお母さん 計5～6名。
 - ・開催日時：週2回
 - ☆火曜・・・勉強に特化した日（ふらっとプラス）
 - ☆木曜・・・自由遊びの日（広いお寺で鬼ごっこなど）
 - ☆第4木曜・・・檀家さん（平均70歳代）とお寺のお掃除をする
- 月1回 ☆日曜・・・同じ境遇のお母さんたちが話せる日（親子のさわ会）

経験不足にならないように

- ・月1回 ワークショップの日（陶芸・料理・うどん打ち・ビーズ作りなど）も開催。



《活動のきっかけ・想い》

- 🌸 お寺は元々寺子屋といい、子どもたちが集まり勉強する場であった。
- 🌸 放課後のみんなたま（みんなのたまり場）⇒小学校高学年の子どもたちが地域と交流し社会性を育むことができる、放課後の居場所ということで4年前に始めた。その時、たくさんの野菜や子どもたちに栄養のあるものと寄付をいただき子どもたちとご飯を食べるようになった。
- 🌸 放課後のみんなたまから派生し、「不登校の小学生・中学生の居場所を開きたい！」「自宅以外に生き生きとられる場所があったらいいな！！」と思い、去年5月から『正安寺ふらっと』を始めた。

『正安寺ふらっと』という名前は「子どもたちがふらっと来られるように」という想いを込めて名付けました。

《池田先生からの質問》

コーディネーター
池田先生



子どもたちがふらっと参加をすることはできますか？あらかじめ連絡や登録が必要でしょうか？

正安寺ふらっと
増田さん



初めての子は予約がなくても参加することができます。話を聞きとり、登録をするか否かを決めてもらいます。親は子どもを預けて帰ってしまうので、何かあった場合のために登録をしてもらっています。

コーディネーター
池田先生



参加したいと希望している子どもは増えていますか？

正安寺ふらっと
増田さん



増えています。開所当時は2人でしたが、徐々に口コミで広がっている面が多いようです。

コーディネーター
池田先生



ふらっとに通うことで元気になり、学校へ通う子もいますか？

学校へ行けるようになることを目的とはしておらず、「社会との接続を途切れさせない」ということをメインとしています。学校へ通うようになった子どもも中にはいます。

正安寺ふらっと
増田さん



コーディネーター
池田先生



学校の教室とは異なる年齢層の子どもたちと関わりを持つことができ、楽しそうだな。と感じました。

そうですね。他にも、スタッフが小さな子どもを連れてくることがあり、初めて赤ちゃんを抱っこしたという子どももいます。昔ながらの関係性を取り戻すことができているように感じます。

正安寺ふらっと
増田さん



《事務局の感想》

ひたちなか市
地域福祉課
平井



サロンの紹介、ありがとうございました。それぞれのサロンの地域や対象は異なっていますが、地域のたまり場としてのサロンを楽しみにしている人達がたくさんいるのだらうと思いました。自分自身もいろいろなサロンに参加してみたいと心から思いました。





コロナ禍で、それぞれのサロンはどのような工夫をしながらサロンを実施してきたか、お話を聞きました！

高齢者ふれあいサロンのぞみ

スタッフ手作りの飾り



- 高齢者の参加者が多く、サロンの開催にはとても悩みました。
- 開催場所のアパートの一室は狭く、感染リスクが高くなるため、通常参加者10名を半分の2班にし、『お庭でカフェ』を30分限定で2回行いました。（感染状況が一時落ち着いたとき）
- 元々の参加者へ袋詰めのお菓子やスタッフが手作りした飾りにメッセージを添えて、民生委員とスタッフとで配りました。
- サロンで再会できないけれど、気持ちはつながっています！心は皆さんの方を向いています！！と気持ちを伝えることが大事だと思っていました。心のつながりは大切にしようと活動を続けていました。

手作りのパーティーション



野外での活動



堀口高齢者サロン

さくら・桜

- いつからサロンを再開するの？とサロンの参加者から質問がありました。
- 堀口の公園（屋外）でサロンを開催しました。健康チェックシート（同サロンで作成）の項目に1つでも問題があった場合、参加は見合わせてもらっていました。検温・消毒を行いました。
- 室内活動の場合、自分たちで手作りしたシールドを使用。飲食は当分の間中止としています。
- 社会福祉協議会から、二酸化炭素の測定器、アルコールの噴霧器を提供してもらい、便利に使用しています。
- 県のまん延防止、国の緊急事態宣言時はなるべく中止するようにしています。

- ・小学生は走り回りたいたらうと思いますが、マスクを着けていると大変そうです。『ふらっと』には幾つかのボードゲームがあり、静かに遊ぶことができます。

<学校が休校とならなかつたまん延防止期間>

- ・時間を短縮し食事は提供せずに、行っていました。休みにしてしまうと、子どもたちのつながりがなくなってしまうため、「サロン」は開いておいてあげたいという想いから、時間短縮としました。
- ・家以外に「サロン」にしか来ていない子どもたちなので、他の人と接触していないことから、「サロン」は閉めない方が良いのではないかとスタッフと話し合っただけました。スタッフは頼まずに、自分たちのみ（増田さん夫婦）で子どもたちを迎え入れていました。

<学校が休校となつたまん延防止期間>

- ・「サロン」を開いておくことは難しく一旦中止としました。でも、つながりがなくなつてしまひ寂しさを感じている子どもたちから、連絡が入り、自宅へ何うケースもありました。。
- ・「自宅に少しお伺いしますね」と連絡をし、お子さんとお母さんと3人で話をする時間を設けて、つながり続ける活動を行っています。

<<池田先生からの質問>>

コーディネーター
池田先生



「寂しいな。」という連絡はどのような方法で入りましたか？

正安寺のフェイスブック（SNS）でつながっていて、子どもたちのお母さんからの連絡を知りました。

正安寺ふらっと
増田さん



コーディネーター
池田先生



直接集まることができない中、何らかの方法で言葉をかけたり、文字を送ったりすることがとても大切なことだと改めて思いました。

<<事務局の感想>>

ひたちなか市
地域福祉課
平井



コロナ禍の大変な中で、試行錯誤し、地域の皆さんの集まれる場を消さないためにいろいろな工夫をしていることが良く分かりました。

サロンフェスティバル

トークショー

第3部フリートーク



それぞれのサロンの今後の展望やサロン同士での情報交換等，自由にお話してもらいました。



コーディネーター
池田先生



3つのサロン運営者がそれぞれのサロンの運営者に対して質問や意見、感想はありますか？
人のつながりには、みんなと飲食することの大切さを感じますが、3サロンの皆様のご意見はどうでしょうか？

お酒飲みの際は重要だと感じます。地域を「どのようにしていったら良いか？」ということは素面では語れないこともあり、「この方向で行こう！！」と決める際に、お酒の力を借りたこともあったのではないかと思います。

堀口高齢者サロン
さくら・桜
佐藤さん



コーディネーター
池田先生



「さくら・桜」さんに参加する男性が15名ということで、他のサロンに比べて多いように思いますが、どうでしょうか？

地域活動をして約50年。みなさんに助けられ、協力者がいるからこそ運営できています。参加者に男性が15名と多いことは他のサロンには見られない現象かと思えます。地域とのつながり，人と人との支え合いや助け合いが影響しているのではないかと感じています。

堀口高齢者サロン
さくら・桜
佐藤さん



コーディネーター
池田先生



お酒だけでなく、人が集まり，お菓子を食べたりお茶を飲んだりという場の状況や，今後取り組みたいことはありますか？

参加者が全員女性ということもあり，コロナ禍以前はお菓子があるだけで話が弾み，のども潤い，話が盛り上がっていました。

民生委員をしていて，「自分自身がお客様民生委員だな。」「なんとなく距離があるな。」と感じていましたが，サロンを始め，『同じ釜の飯を食う』ではないけれども，ともに参加者と同じお茶を飲み，同じお菓子を食することで同じ土俵に上がったような気がしました。

飲食しながら，心がゆったり落ち着き，リラックスした雰囲気の中で話ができるというのが，サロン活動には必要だったのだなと思いました。サロンが再開できたら行っていきたくと思っています。

高齢者ふれあいサロンのぞみ
巖淵さん



みんなで同じことをしていると、良い意味で気が緩み、話がしやすい環境となると思っています。食事を摂りながら会話をするのは大事であると思います。

サロンでお菓子や料理を子どもたちと一緒に作ることもあり、食事（食べることも作ることも含めて）はつながりのツールの中で重要と感じました。

正安寺ふらっと

増田さん



コーディネーター

池田先生



今後（2～3年後）、自分たちのサロンがこんな風になったらいいな！こんな風にしたいな！理想のためにはこんなことが必要だな！ということはありませんか？

『さくら・桜』佐藤さんの話を聞き、サロンの参加者に男性がいるということをややましく思いました。自分たちのサロンへの参加を男性に声掛けするのですが、女性ばかりのところに行くのは恥ずかしいという声が聞こえています。今後は男性の参加者を増やし、もっと様々な方の居場所となるサロンにしていきたいです。

高齢者ふれあいサロンのぞみ

のぞみ
巖淵さん



コーディネーター

池田先生



『さくら・桜』の佐藤さんから男性の参加について何かアドバイスはありますか？

以前の青年活動を通して、年上の方との結びつきがありました。青年会ということでアルコールが好きなメンバーがいて、男性の参加につながっているのではないかと思います。男性は仕事をリタイアした後、地域に参加することへの抵抗があると思われます。常日頃の地域の活動に何でもよいから顔を出してもらいながら、地域とのつながりを築き上げていくことが必要なのではないかと思っています。

堀口高齢者サロン

さくら・桜
佐藤さん



コーディネーター

池田先生



その他に、こんな風にできたらいいな。こんな風にしたいな！という考えや想いはありますか？

バスを使って買い物へ行っていると『高齢者サロンのぞみ』の巖淵さんがお話していたのを聞き、子どもたちの中に遠足を経験したことがない子がいるので、可能であればバスを利用して、少し遠出をしてみたいです。

『ふらっと』を長く続けていきたいと思っているので、子どもたちが成長し、スタッフとして戻ってきてくれるなど…。楽しみにしています。

正安寺ふらっと

増田さん



コーディネーター
池田先生



子どもたちの成長はあっという間ですよ。サロンで学んだ方々が地域の次の担い手になってくれたらお互いにうれしいと思います。
『さくら・桜』の佐藤さんに質問です！！これからに向けて考えていることやお悩みのことはありますか？

『正安寺ふらっと』の増田さんのように子どもたちの参加を考えています。しかし、集会所がとても狭く、子どもを育てるお母さんと高齢者を結びつけて行くことが難しいです。可能なら、子育てサロンと高齢者サロンをたまには一緒に開催し、高齢者と離れて暮らす子育て世代が多いため、ふれあいの場をつくりたいと考えています。

堀口高齢者サロン
さくら・桜
佐藤さん



コーディネーター
池田先生



それぞれの世代がつながれるほっとできる場所が身近にあると良いと思っています。『さくら・桜』の佐藤さんは場所の設定が課題とのことで、今後、場所を提供してくれる人や子どもサロンを担ってくれる人ができて、新たなつながりが生まれると良いと思いました。

サロンの活動にいろいろな人が集まることでさらに楽しい気持ちになってくると思います。多世代で自由にかかわったり楽しんだり教えたり教えられたりすることができたら良いと思いました。



《事務局の感想》

ひたちなか市
地域福祉課
平井



サロンの今後や夢を聞くことができ、面白かったです。
今回はオンラインのサロンフェスティバルということで皆さんがそれぞれの場所で参加していただいています。直接会わなくてもおしゃべりできるということを伝えることができた良いと思いました。
今回をきっかけに、『オンラインでやってみたい！！』という方はチャレンジしてみたいです。

市地域福祉課や社会福祉協議会でも何かあればいつでもお気軽にご相談下さい。